

# 家計管理・生活設計のツボ

## 第6回

### 便利なクレジットカード、正しく使えていますか？

最近では、多彩な機能が追加された便利なクレジットカードが続々登場しています。でも、カードでのショッピングは基本的に「借金をすること」。その認識をしっかりと持ち、どうすれば、もっとクレジットカードと上手に付き合えるのかを考えてみましょう。

- 👉 **ツボ1** 便利で気軽なカード払いは、支払い(決済)完了まで「借金」を背負うことと心得て
- 👉 **ツボ2** 未決済残高や利息、手数料なども考慮して、支払い方法は計画的に選択を
- 👉 **ツボ3** クレジットは社会的信用。マイルールを設けてカードと賢く付き合おう

### クレジットカードが後払い可能なワケは…？

「クレジットカードを1枚も持っていない」という人は、今やかなりの少数派だと思います。むしろ、最近では複数のカードを用途別に使い分けている人の方が多いかもしれません。

利用金額に応じてポイントが貯まったり、飲食店や交通機関でプリペイド機能が利用できるなど、近ごろは、「クレジットカード」以外のさまざまな機能が、クレジットカードに付与されています。複数のカードを組み合わせれば、じやらじやらと小銭を持つわずらわしさから解放され、買い物も移動もスマートにできる便利な時代になりました。けれど、便利だからこそ気を付けてほしいポイントもあります。

まず、クレジットカードを利用することは、「借金をすること」と同義だということです。お店でカードを差し出せば、欲しい品物やサービスが手軽に手に入れられるため、なかなか自覚を持ちにくいのですが、10万円の品物をカードで入手すれば、支払い(決済)が完了するまで10万円の借金をしていることになるのです。

そもそも、このような後払いの

システムが成立するのは、カード名義人(持ち主)の「必ず払う」という約束(契約)に基づいて、クレジットカード会社が立て替え払いをしていくから。カードを作る際に、信用調査が行われるのはそのためです。システムを成立させているのは、一人ひとりの「信用」なのです。

### 知っておきたい！カードの支払い方法それぞれの特徴

「借りたお金は、後で必ず返す」。当たり前のことですが、この「当たり前」を軽く見ていると、支払い困難に陥ってしまうこともあります。カード払いをする際は、必ず、ムリのない返済計画を立ててからにしましょう。

クレジットカードにはいくつもの支払い方法があり、カード利用の際に選択できます。

●**翌月一括払い**…商品などを購入した次の月に、一括して代金を支払う方法です。一般に金利や手数料はかかりません。

●**ボーナス一括払い**…商品などを購入した次のボーナス時期(夏は7月か8月、冬は12月か1月)に一括して代金を支払う方法。少し値の張る買い物をするときを選ぶ人が多いようです。こち

らも、一般に金利や手数料はかかりません。

●**分割払い**…支払回数を決めて支払っていく方法です。3回払い以上から金利や手数料がかかってくるカードが多いようです。カードによってはボーナス払いが併用できるものも。

●**リボルビング払い**…月々の支払い金額を一定額、または未決済残高に対する一定率に決められる支払い方法です。月々5千円と決めておけば、3万円の買い物しても、月々の支払い金額は5千円になります。

自分の懐事情や先々の収入予定に合わせて支払い方法を選ぶのは、クレジットカードの便利な点の一つです。けれど、先々に支払わないといけない額をきちんと把握しておかないと、支払明細書が届いてビックリ！といったことにもなりかねません。とくに、リボルビング払いは、月々の支払い金額を少額に抑えることができるため、支払い余力があるかのように錯覚し、無計画な買い物をしてしまう可能性があります。また、分割払いより金利が高いために、長期間にわたって多額の金利を払い続けることになりかねません。

## ■身の回りにある“カード”の種類

	プリペイドカード	デビットカード	クレジットカード	ポイントカード
代金の支払い方法	前払い	即時払い	後払い	—
カードの入手方法	店舗などでカードを購入する	金融機関に預金口座を設ける	申込後、カード会社の審査を受け、発行される	店舗などで発行 (クレジットカードにポイント機能が付帯しているものも)
利用金額	あらかじめ購入した金額の範囲内	預金口座の残高の範囲内	利用限度額の範囲内	貯まっているポイントの範囲内 (現金還元率はカードによって異なる)
使い方	カードが利用できる店舗やサービスに対して提示 (カードにより異なる)	端末に暗証番号を入力	端末に暗証番号を入力、または利用力、または伝票にサイン。ネット利用の場合はカード番号と有効期限、パスワードやセキュリティコードなどを入力	カードによって異なる
利用権限	誰でも利用可能	口座名義人のみ (年齢制限なし)	カード名義人のみ (一般的に18歳以上)	誰でも利用可能 (クレジットカードに機能が付帯しているもの以外)

【電子マネー】  
カードに金額をチャージして利用する「電子マネー」は、現金、あるいは預金口座の残高の範囲内でチャージできるものと、クレジットカードでチャージできるものがあります。前者は「前払い」、後者は「後払い」になります。一定の金額まで残高が減ると自動的にチャージされるタイプの電子マネーをクレジットカード払いで利用する場合、知らぬ間に負債が増える可能性があるため、注意が必要です。

## クレジットカードのトラブルを避けるには？

クレジットカードのトラブルで、筆頭にあげられるのが「カードの盗難・紛失」です。うっかり無くしてしまったというだけでなく、盗難の被害も増加傾向にあります。クレジットカードの紛失で何より怖いのが、不正利用です。「家に帰ってもう一度探そう」などと悠長なことを言っている間に、第三者に限度額いっぱいまでカードを使われてしまうかもしれません。保険でまかなわれるから大丈夫とタカをくくっていると、保管・管

理が不十分だったり、類推しやすい暗証番号で不正利用された場合などは救済されないケースがあります。「無い！」と思ったら、すぐにカード会社に電話をし、使用停止の手続きをしてください。一方、カードで購入した商品に欠陥があった、商品が届かないといったトラブルが起こった際は、カード会社に申し出て、支払いを拒否する権利があります。この権利を行使するには一定の条件があるので、約款などを確認してみましょう。ただし、「3万円だと思って買ったのに、明細を見たら8万円だった

た」といったケースには対応してもらえないことが多いので注意。自分が値段を見誤っていたにしろ、店員がレジを打ち間違えたにしろ、サインをした時点で契約は成立してしまいます。このようなトラブルにならないよう、サインや暗証番号入力をする前にレシートをしっかりと確認するクセをつけておくことが大切です。

また、最近では、クレジットカードに多くの機能が付帯しているからこそ発生するトラブルも。例えば、「海外旅行や自動車などの保険付きカード」。いざ海外で使うと思ったら、年間一定額以上のカード利用がないと保険が有効にならない「利用付帯」だったとか、たしかに保険は適用されたけれど、補償金額が少額過ぎた…といったケースに注意。「付いている」だけで安心するのではなく、「どのようなケースでいくらまで補償されるのか」を事前に確認しておくことが大切です。

## クレジットカードと賢く付き合うために

クレジットカードを利用する際の注意点を改めて振り返ってみましたが、クレジットカードを使えば支払いは簡単だし、ポイントも貯まっておトクだし、社会的な信

用の証にもなるわけですから、現代社会において、「カードを一切使わない」という選択をすることはなかなか難しいと思います。ならば、カードの利用は収入の1割までにするとか、支払いは一括払いのみにする、あるいはキャッシング枠は0円で設定するといった具合に、クレジットカードと賢く付き合うための自分なりのルールを決めてはいかがでしょうか。

最近では、電子マネー機能が付帯したクレジットカードや一定額以下の利用はサイン不要のカードなども登場していますが、ますます手軽になった分、「見えないお金」への意識は希薄になりがちです。「ついついお金を使いすぎてしまう」タイプの方は、知らぬ間に負債が膨らむ事態を避けるために、こうした機能は利用しないといったルールを作ること一案でしょう。また、支払明細の確認は、ウェブ方式とはせず、あえてペーパー方式としたうえで、明細書が届いたときに利用明細とレシートを照合し、無駄な買い物をしていないかという点も含めて確認されてはいかがでしょうか。ほんの少しの心がけ次第で、クレジットカードとの関係は、もっと安心で快適なものになっていくと思います。